

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学Ⅱ①	前期2単位	6	10	3

使用教科書	東京書籍	「新数学Ⅱ」	2	東書	数Ⅱ 717
		「新数学Ⅱ 解答編」	2	東書	数Ⅱ 718

#### ◇科目の目標

基礎的な知識の取得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

#### ◇科目の概要

数学Ⅰに続く内容として、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数について学ぶ。

#### ◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

#### ◇履修にあたっての留意点

各レポート1枚分の内容が多いので、予習をしてから、スクーリングを受けるようにする。

#### ◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	4/27.28	1	複素数	12～15
2	5/ 4. 5	1	2次方程式、解の判別、解と係数の関係	16～19
3	5/11.12	2	整式の除法と因数定理、高次方程式	20～26
4	5/18.19	3	直線上の点の座標、平面上の点の座標	34～43
5	5/25.26	3	直線の方程式、2直線の関係	44～51
6	6/22.23	4	円の方程式、円と直線	52～56
7	6/29.30	4	不等式・連立不等式の表す領域	58～63
8	7/ 6. 7	5	三角関数の一般角と相互関係	66～71
9	7/13.14	6	三角関数のグラフ	72～75
10	7/20.21	6	三角関数の性質、加法定理、弧度法	76～82

#### ◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

#### ◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。 観点別評価の

**【知識・技能】** は主としてテストによる学習の定着度から評価します。

よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

**【思考・判断・表現】** は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。

レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

**【主体的に学習に取り組む態度】** はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。

出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学Ⅱ②	後期2単位	6	10	3

使用教科書	東京書籍	「新数学Ⅱ」	2	東書	数Ⅱ 717
		「新数学Ⅱ 解答編」	2	東書	数Ⅱ 718

#### ◇科目の目標

基礎的な知識の取得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

#### ◇科目の概要

指数・対数関数と微分・積分について学ぶ。

#### ◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

#### ◇履修にあたっての留意点

各レポート1枚分の内容が多いので、予習をしてから、スクーリングを受けるようにする。

#### ◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	10/ 5.6	1	指数の拡張	86～91
2	10/12.13	1,2	指数関数のグラフと指数関数の利用	92～95
3	10/19.20	2	対数、対数の性質	96～99
4	10/26.27	2,3	対数関数とそのグラフ、性質	99～101
5	11/ 2.3	3	常用対数	102～103
6	11/30.12/ 1	4	平均変化率、極限值と微分係数	106～109
7	12/ 7.8	4	導関数と接線の方程式	110～115
8	12/14.15	5	関数の極大・極小、最大・最小	116～122
9	12/21.22	5,6	不定積分	124～127
10	1/11.12	6	定積分、面積	128～132

#### ◇テスト範囲

後期中間テスト	レポート 1, 2, 3	後期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

#### ◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。 観点別評価の

**【知識・技能】** は主としてテストによる学習の定着度から評価します。

よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

**【思考・判断・表現】** は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。

レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

**【主体的に学習に取り組む態度】** はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。

出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	ベーシック数学(後)	後期2単位	6	6	3

使用教科書 なし (手作り参考書教材使用)

◇科目の目標

数と式・図形の学習のための基礎的事項を確認しつつ、四則計算を正確に行う力をつける。さらに図形から角度や辺の長さを求める力をつける。

◇科目の概要

「自然数・小数・分数・正負の数の四則計算」、「無理数」「文字式」「因数分解」「2次方程式」「三角形の辺と角」の基本。

◇学習の進め方

スクーリングでの参考書解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

数学Ⅰの学習のために必要な基礎力をつけるための科目です。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容
1	10 / 5・6	1	自然数の四則計算・小数と分数
2	10 / 12・13	2	正負の数の四則計算
3	10 / 26・27	3	無理数・根号を含む数と式
4	11 / 30・12 / 1	4	文字式の計算
5	12 / 14・15	5	因数分解・1次方程式・2次方程式
6	12 / 21・22	6	三角形の辺と角

◇テスト範囲

後期中間テスト	レポート 1, 2, 3	後期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数学	数学 I ①	前期2単位	6	10	3

◇科目の目標

中学までの復習から始め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方を認識できるようにする。

◇科目の概要

「基礎的な計算」、「1次方程式・不等式」、「2次方程式と2次関数」の基本と応用。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

数 I は必履修科目です。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授業内容	教科書 ページ
1	4/27・28	1	基礎的な数の計算の復習	P 4~35
2	5/ 4・ 5	2	文字を使った式の計算、乗法公式	P36~41
3	5/11・12	3	因数分解と実数	P42~45
4	5/18・19	3	因数分解と実数	P46~51
5	5/25・26	3	因数分解と実数	P51~56
6	6/22・23	4	実数、方程式と不等式、2次方程式	P57~68
7	6/29・30	4	2次方程式	P68~71
8	7/ 6・ 7	5	1次関数、2次関数とそのグラフ	P74~87
9	7/13・14	5	2次関数とそのグラフ	P87~91
10	7/20・21	6	2次関数の最大値・最小値、共有点	P92~97

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇使用教科書 東京書籍 「新数学 I」 「新数学 I 解答編」

2	東書	数 I 704
---	----	---------

2	東書	数 I 705
---	----	---------

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数学	数学 I ②	後期2単位	6	10	3

◇科目の目標

中学までの復習から始め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方を認識できるようにする。

◇科目の概要

「基礎的な計算」、「2次不等式」、「三角比」、「データの分析」、「集合と論証」の基本と応用。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

数 I は必履修科目です。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授業内容	教科書 ページ
1	10 / 5・6	1	基礎的な数の計算の復習、2次不等式	P4-11, P48-52 P96-98
2	10 / 12・13	1	2次不等式	P98~101
3	10 / 19・20	2	三角比、相互関係	P104~113
4	10 / 26・27	2・3	相互関係、三角比の応用(面積、正弦定理)	P114~119
5	11 / 2・3	3	三角比の応用(余弦定理、余弦定理の変形式)	P120~121
6	11 / 30・12 / 1	4	鈍角の三角比	P122~125
7	12 / 7・8	5	データの分析(度数分布表、ヒストグラム、相対度数)	P130~135
8	12 / 14・15	5	データの分析(代表値、偏差、分散、標準偏差)	P136~141
9	12 / 21・22	6	集合と論証(集合、命題)	P150~155
10	1 / 11・12	6	集合と論証(命題、必要十分条件、証明)	P155~159

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。  
【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。  
【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇使用教科書 東京書籍 「新数学 I」、「新数学 I 解答編」

2	東書	数 I 704	2	東書	数 I 705
---	----	---------	---	----	---------

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数学	数学A	前期2単位	6	8	3

◇科目の目標

場合の数と確率, 図形の性質について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, それらを的確に活用する能力を伸ばし, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

◇科目の概要

場合の数と確率, 平面図形の基本を身につける。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に, 自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

予習をして, わからない所をスクーリングで聞くようにしましょう。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授業内容	教科書ページ
1	5/ 4・5	1	集合, 共通部分と和集合, 補集合, 要素の個数, 和の法則, 積の法則	4~11
2	5/11・12	2	順列, 階乗, 重複順列, 円順列	12~17
3	5/18・19	2 3	組合せ, 組合せの応用 確率の基本, 排反事象と和事象, 余事象	18~21 22~29
4	5/25・26	3	独立な試行の確率, 反復試行の確率, 条件つき確率, 期待値	30~37
5	6/22・23	4	相似, 中点連結定理, 三角形の重心・外心・内心	40~57
6	7/ 6・7	5	角の二等分線, 円周角の定理, 円周角の定理の逆	60~61
7	7/13・14	5・6	円に内接する四角形, 四角形が円に内接する条件	62~63
8	7/20・21	6	円の接線, 接弦定理(接線と弦のつくる角), 方べきの定理, 正多面形	58~59 64~75

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇使用教科書 東京書籍 「新数学A」 「新数学A 解答編」

2	東書	数A 704
---	----	--------

2	東書	数A 705
---	----	--------

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数学	数学B	通年2単位	6	8	3

◇科目の目標

数学Ⅰ・Ⅱ・Aより進んだ内容を理解し、合わせて基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、データを数学的統計に考察し処理する能力を育てる。

◇科目の概要

これまでより進んだ内容のいろいろな数列、統計的な推測について学ぶ。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

学習書がないので、機会があるごとに副教材の参考書を利用する。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授業内容	教科書ページ
1	5月4日・5日	1	等差数列・等比数列	9~20
2	5月11日・12日	2	和の記号Σ	24~29
3	6月29日・30日	3	階差数列	31~34
4	7月20日・21日	3	漸化式	35~36
5	10月12日・13日	4	確率分布	47~57
6	10月26日・27日	5	確率分布・確率密度関数	54~61
7	11月30日・12月1日	6	正規分布	63~66
8	12月14日・15日	6	母集団と標本	69~74

◇テスト範囲

後期期末テスト	レポート1~3	後期期末テスト	レポート4~6
---------	---------	---------	---------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。  
 観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。  
 「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇使用教科書

数研出版 「新 高校の数学B」